

地域塾

に根付く

大学受験の指導の中で、伸び悩む子の課題として、「学習意欲」と「思考力」と「心の問題」に注目した。そしてそれが、幼児期・児童期の保護者との関係に大半原因があると確信し、十二年前に、小学生を対象とした学習教室としてスタートした。

低学年の子どもたちには、姿勢や聞く態度に重点を置きつつ、「勉強って楽しい」「考え抜くのは面白い」という気持ちを育てることが目標。四年生以上は、レベル別の文章題や国語の長文読解などを題材に、「分からなかったら、次には分かるようにする学習方法」を身に付けさせることを目指している。骨太の知力・人間力を育て

「花まる学習会」(さいたま市) 高濱正伸代表

●● 17

るべく、「滝つぼに飛び込むサマースクール」など、年間を通じた豊富な野外体験を提供していることも、特徴である。

塾というものは、検証を経ておき、効果があると直感すれば、その日から実行してしまつ行動力で、生き抜いているところがある。

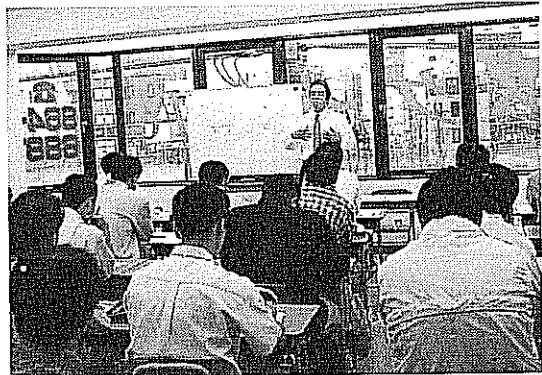
われわれの特色の最大ものは、「父母教育」であろう。これは、子どもの将来の自立と魅力をも、真摯(しんしん)に考え抜いたときに、「親が変わること」が大事だと感じる場面に何度も出

るべく、「滝つぼに飛び込むサマースクール」など、年間を通じた豊富な野外体験を提供していることも、特徴である。

塾というものは、検証を経ておき、効果があると直感すれば、その日から実行してしまつ行動力で、生き抜いているところがある。

塾生の父母に子育て指南

くわして、始まったものである。「弟にできて、何であんたにできないのよ」「あんたバカじゃないの」というような言葉を、私の前でも平然と浴びせながら、「この子やる気ないんです



よねえ」と「悩み」を訴える母がいる。「ていうか、うちの子、国語が全然駄目、みたいなの」と嘆く母がいる。おもろうてやる。

私はこの親にして、この子ある。また一方で、まじめで頑張り

定期的に行っている父母教育。父親学級の参加者が増えてきたことが、ここ一、二年の特徴という

屋であるが故に、子育てのストレスを一人で抱え込んで、虐待やお受験病などの迷路に入り込んでしまつ母も多い。

双方に共通しているのは、母親の孤独と不安である。地域の崩壊という背景の中で、家族カプセルはつながらなく漂流

学校、幼稚園から講演依頼も

どの演題で話をする。思春期以降に家庭内暴力やリストカットなど、実際に壁に当たってしまった親子の事例を引き合いに、低学年までの今こそが大事、修正するならば今ですと話す。

地域なき現代においては、母を支える父親の役割が重要さを増していること、親同士のつながりを、あえて創造する必要がある。ツボに入っているのを訴える。想像文は熱烈なものが多い。

幸いにして、塾生の保護者向けだった講演も、小学校や幼稚園から依頼される機会が増えてきた。また、理解ある保護者が、「子育て応援隊」を組織して、塾の屋間の空間を利用して、野菜の販売やおしゃべりサロンなどを楽しみつつ、若い母親の相談相手になってくれている。

花まる学習会 048・837・5514